


1. 総論

【総括判断】「管内経済は、新型コロナウイルス感染症の影響がみられるものの、持ち直しつつある」

項目	前回（4年4月判断）	今回（4年7月判断）	前回比較
総括判断	新型コロナウイルス感染症の影響により、厳しい状況にあるなか、持ち直しに向けたテンポに一服感がみられる	新型コロナウイルス感染症の影響がみられるものの、持ち直しつつある	




（注）4年7月判断は、前回4月判断以降、7月に入ってから足下の状況までを含めた期間で判断している。







（判断の要点）

個人消費は、外出機会の増加などから、消費者マインドの回復傾向がみられるものの、横ばいの状況にある。観光は、感染症の影響がみられるものの、持ち直しつつある。雇用情勢は、持ち直しつつある。

【各項目の判断】

項目	前回（4年4月判断）	今回（4年7月判断）	前回比較
----	------------	------------	------

個人消費	感染症の影響により、持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている	持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている	
観光	感染症の影響により、厳しい状況にあるものの、緩やかな持ち直しの動きがみられる	感染症の影響がみられるものの、持ち直しつつある	
雇用情勢	感染症の影響により、弱い動きとなっている	持ち直しつつある	

設備投資	3年度は前年度を上回る見込み	4年度は前年度を上回る見込み	
企業収益	3年度は増益見込み	4年度は増益見込み	
企業の景況感	現状判断は、「下降」超に転じている	現状判断は、「上昇」超に転じている	
住宅建設	前年を下回っている	前年を上回っている	
公共事業	前年を上回っている	前年を上回っている	
生産活動	一部に弱さがみられるものの、持ち直しつつある	持ち直しつつある	

【先行き】

先行きについては、感染対策に万全を期し、経済社会活動の正常化が進む中で、各種政策の効果もあって、景気が持ち直していくことが期待される。ただし、ウクライナ情勢の長期化などが懸念される中での原材料価格の上昇や供給面での制約等による下振れリスクに十分注意する必要がある。また、感染症による影響を注視する必要がある。

2. 各論

■ 個人消費 「持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている」

百貨店・スーパー販売額は、食料品は引き続き堅調に推移しているほか、不要不急の買い物を控える動きの緩和から衣料品なども動きがみられ、前年を上回っている。コンビニエンスストア販売額は、前年を下回っているものの、引き続き、住宅街周辺は堅調な動きがみられるほか、観光地周辺でも持ち直しに向けた動きがみられる。ドラッグストア販売額は、前年を下回っている。新車販売台数、中古車販売台数ともに、前年を下回っている。家電販売額は、前年を下回っている。このように、個人消費は、持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている。

(主なヒアリング結果)

- 新型コロナ関連の行動制限がなかったことから、コロナ禍前程ではないが、来店客数も増え良かった。5月、6月の大雨がなければもっと伸びていたと思われる。(百貨店・スーパー)
- 食料品は引き続き堅調に推移し、衣料品も戻りつつある。また、外出自粛の緩和から今までは動きがなかった化粧品などが売れている。(百貨店・スーパー)
- 住宅周辺の店舗では天候の影響は受けたものの引き続き堅調。梅雨が明けてから良くなっている。観光立地の店舗では、観光客の増加から比較的好調。オフィス立地等では、出社している人は増えているようだが苦戦。(コンビニエンスストア)
- マスク等の衛生用品が淡々と売れており、ここ最近の色が付いたマスクなど少し価格帯が高い商品が選ばれており医療衛生品は前年を上回る。化粧品は引き続き伸び悩んでいる状況が続いている。(ドラッグストア)
- 新車は半導体不足、上海ロックダウン等の影響で3~4ヶ月納車が遅れており、また、納車遅れに伴う下取り車の減少で、中古車の販売台数が落ちた。(自動車販売店)
- 4月は気温が上がりエアコンが売れた。冷蔵庫、洗濯機なども売れており良い。5月は梅雨の影響で気温が上がらずエアコンの売上げが落ちたため悪い。6月は、気温が上がり季節感も出て、エアコンが動いている。(家電量販店)

■ 観光 「感染症の影響がみられるものの、持ち直しつつある」

入域観光客数は、国内客は、前年を上回っている。県内の感染状況の高止まりの影響により、修学旅行は一部キャンセルがみられたものの、全体的な傾向としては、行動制限がない中、個人客を中心に旅行需要は持ち直しつつある。外国客は、引き続きゼロとなっている。ホテルの客室稼働率、客室単価は、ともに前年を上回っている。このように、観光は感染症の影響がみられるものの、持ち直しつつある。

- 1-3月期はオミクロン株の急拡大・まん防止措置等の影響で落ち込んでいたが、4月以降徐々に旅行需要が戻ってきている。(他運輸)
- まん延防止等重点措置が解除されてから、3月以降、順調に稼働が伸びている。5月のGWの稼働は約9割と好調で、コロナ前に戻っていた。特にカップルや家族連れ、若者のグループの利用が多かった。(宿泊)
- 前期1-3月期に比べると良くなっているが、個人客中心で、団体客は戻ってきていない。5月のGWの入場者数は、国内客だけでみるとコロナ前の約7割と好調であった。4~6月期の修学旅行は、3月時点では例年近くの水準に戻る見込みであったが、県内のコロナの高い感染状況により、一部キャンセルがあった。(娯楽)
- まん延防止等重点措置が適用されていた前期1-3月期と比べると上向きであるが、県内のコロナ感染者数の増加により、修学旅行がキャンセルになり例年の2割程度の実施になるなど、稼働は低い水準である。(宿泊)
- 通常、5月はGW以外は稼働が落ち、底値の時期であるが、今年は4月以降上向きの状況。最近では、未就学の家族連れが多い。7月、8月は、目標値の稼働70%は確実に超えることが見えている。(宿泊)
- オミクロン株が落ち着き始めた3月以降予約が増え始め、3月後半~GWの予約は断らざるを得なかった。6月は当初予約状況は良くなかったが、間際で予約が伸びた。7~9月までの予約も断っている状況。(レンタカー)
- エリア別では、宮古島が最も好調で、4~6月のいずれも2019年を超えている。続いて、八重山、本島リゾート、那覇の順となっている。夏休みも個人客が中心で、予約は好調であるが、県民割の拡大の延期報道後、新規予約が止まっており、キャンセルも少しずつ出ている。ただ、県民割の拡大が延期になったからというよりは、全国的な感染拡大の影響ではないかとみている。(旅行)
- 7月以降の見通しとしては、売上げはコロナ前の約8割を見込む。予約状況については、7月前半は戻っているが、7月後半以降は、間際の予約の動きは見られるものの、県民割全国拡大の開始時期が後ろ倒しになった影響もあり、期待していたほどの伸びは見られない。(他運輸)

■ **雇用情勢** 「持ち直しつつある」

有効求人倍率（季節調整値）は、上昇している。新規求人数は、その他サービス業、宿泊業・飲食サービス業など、多くの業種で前年を上回っており、新規求職者数（新規求職申込件数）は、前年を上回っている。このように、雇用情勢は、持ち直しつつある。

- 有効求人倍率（季節調整値）は0.95倍で、27ヶ月連続で全国最下位である（前月から0.03ポイント上昇）。新規求人倍率（季節調整値）は1.97倍となり、前月から0.25ポイント上昇となっている。新規求人数（季節調整値）は、観光需要の増加を背景に、特に宿泊・飲食サービス業で増加している。また、その他のサービス業については、IT関係（システムエンジニア、プログラマー）の労働者派遣事業で新規求人が増えている。求人傾向としては、GWの短期的な需要ではなく、夏場の観光需要を見据えた長期的な需要がみられる。（公的機関）
- 4～6月の求人数は、若干回復傾向にあるがまだ弱く、水準感としては、コロナ前の7割。4～6月は、コロナ感染者の高止まりにより、求人側も慎重で、直接雇用ではなく仲介業者から借りる派遣での対応傾向があった。特にGWの繁忙期は派遣の求人が多くみられたが、5～6月頃にはまん延防止等重点措置に戻らないだろうと確信した動きがみられるようになった。（求人誌出版）
- 人手不足感は1～3月期と比べ強まっている。求人を出してもなかなか応募がない。県内で人を採用しようとする動きが強まっている印象がある。不足感が強い部署の求人では時給を上げて募集しているがそれでも採用できていない。（百貨店・スーパー）
- 雇用調整助成金は、4月まで利用していたが、需要回復により5月以降は申請なし。（他運輸）
- 雇用調整助成金を活用して、従業員を休業させながら、雇用を維持している。稼働が低い平日は5割休ませている。引き続き利用予定。（宿泊）

■ **設備投資** 「4年度は前年度を上回る見込み」（全産業）「法人企業景気予測調査」4年4～6月期

- 製造業では、食料品などで減少することから、全体では前年度を29.5%下回る見込みとなっている。
- 非製造業では、卸売・小売、不動産・物品賃貸などで減少するものの、電気・ガス・水道、金融・保険などで増加することから、全体では前年度を30.9%上回る見込みとなっている。

- 今年度は工場設備の新設などを予定しているものの、減少見込みである。（食料品）
- 今年度は新本店の建替え工事などを予定しており、増加見込みである。（金融・保険）

■ **企業収益** 「4年度は増益見込み」（全産業）「法人企業景気予測調査」4年4～6月期

- 製造業では、食料品、機械器具などで減益となることから、全体では▲65.8%の減益見込みとなっている。
- 非製造業では、卸売・小売、建設で減益となるものの、運輸・郵便、不動産・物品賃貸などで黒字転化となることなどから、全体では58.1%の増益見込みとなっている。

■ **企業の景況感** 「現状判断は、「上昇」超に転じている」（全産業）「法人企業景気予測調査」4年4～6月期

- 企業の景況判断BSIは、全産業では「上昇」超に転じている。先行きは「上昇」超で推移する見通しとなっている。

■ **住宅建設** 「前年を上回っている」

- 新設住宅着工戸数は、貸家で前年を下回っているものの、持家、分譲で前年を上回っていることから、全体では前年を上回っている。

■ **公共事業** 「前年を上回っている」

- 公共工事前払金保証請負額（4年度6月累計）は、前年を上回っている。

■ **生産活動** 「持ち直しつつある」

- 金属製品が低下しているものの、足下では、食料品及び窯業・土石が上昇していることなどから、生産活動は持ち直しつつある。